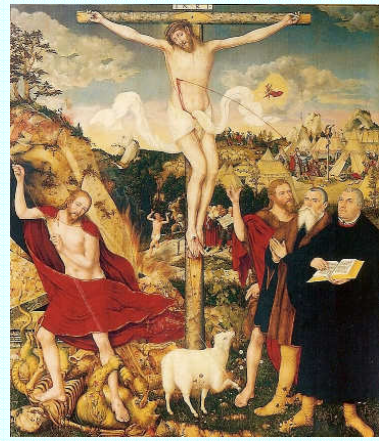


バッハの聖地・聖トーマス教会で
《マタイ受難曲》を一緒に歌いませんか。



団員募集中！ (特に男声) 見学はいつでも大歓迎！

東京ジングフェラインは、2013年8月、福島章恭指揮によるライブツィヒ・聖トーマス教会での《ミサ曲口短調》の演奏が高く評価され、2016年3月に《マタイ受難曲》を同教会で演奏することになりました。

練習曲目：J. S. バッハ 《マタイ受難曲》 BWV 244

演奏会予定：2016年1～2月頃 東京ジングフェライン壮行・定期演奏会（都内または横浜）
2016年3月1日（火） ライプツィヒ・聖トーマス教会*

* この演奏会のツアーエージェントは、(株)エムセックインターナショナルを予定

♪ 練習日：毎週金曜日 18時30分～20時30分

♪ 練習場所：テッドアートスタジオ（共立電気ビル7F）
（JR 恵比寿駅より徒歩3分）

入会金：2,000円

団費：4,000円/月（学割 2,000円/月）

演奏会積立金：3,000円/月



東京ジングフェライン HP：<http://www.tokyo-singverein.com/>

お問い合わせ：斎藤 四寿男

TEL・FAX：042-625-6031

e-mail：info@tokyosingverein.com



東京ジングフェライン

音楽監督・福島章恭の稽古・本番指揮を通して、西洋音楽の本質・作曲家との対話、魂の感動を求めようと、2005年10月に都内に結成された混声合唱団。福島章恭による画期的なヴォイストレーニングによって、真に美しいコーラスを目指しています。じっくりと作品に取り組み、今までに、W. A. モーツァルト《レクイエム》、J. S. バッハ《ミサ曲口短調》（2回）、W. A. モーツァルト《ミサ曲ハ短調》（レヴィン版）、J. S. バッハ《ヨハネ受難曲》を演奏し、聴衆の皆様から絶賛を頂きました。また、東京ジングフェラインを核として、福島先生の指揮の下、ウィーン・ムジークフェラインおよびシュテファン大聖堂でモーツァルト《レクイエム》、ヴァチカン・システィーナ礼拝堂での合唱コンサート、ライブツィヒ・聖トーマス教会でバッハ《ミサ曲口短調》を演奏し、絶賛を浴びました。

福島章恭（ふくしまあきやす）音楽評論家、合唱指揮者

桐朋学園大学演奏学科声楽専攻卒業。声楽を萩谷納、移川澄也、指揮法を紙谷一衛の諸氏に師事。1996年ベルギー・ナミュールにてフリーダー・ベルニウス氏による合唱指揮マスタークラスを受講。現在、東京ジングフェラインの他、長岡混声合唱団、富士ベーターヴェンコーラス、女声合唱団 KIBI、ヴォイス 2001、HANA ヴォーカル、スウィングロビン指揮者。2004年ウィーン・ムジークフェラインザール、ザルツブルグ・モーツァルテウムにて高田三郎《水のいのち》を現地初演。2005年プラハ・スメタナホールにてドヴォルザーク《ミサ曲ニ長調》、《水のいのち》、2006年ウィーン・ムジークフェライン大ホールにてモーツァルト《レクイエム》（チェコ・ブラハ管）、ウィーン・シュテファン寺院からの招聘により、2009年、同寺院グランドコンサートにてモーツァルト《レクイエム》を指揮。2010年には、日本人として初めてヴァチカン・システィーナ礼拝堂で合唱コンサートを指揮。また、2013年8月、ライブツィヒ・聖トーマス教会にて J. S. バッハ《ミサ曲口短調》を指揮、聴衆よりスタンディング・オベーションにて受け入れられる。音楽評論家として、1994年アリオン賞（現柴田南雄音楽賞）奨励賞（本賞なし）受賞。著書に「新版 クラシック CD の名盤」「同 演奏家篇」（宇野功芳・中野雄共著、文春新書）「モーツァルトを CD で究める」「モーツァルト百科全書」「バッハを CD で究める」（毎日新聞社）を上梓。自他ともに認めるアナログ・オーディオマニアでもある。